

悲しい・つらい・悔しい体験とその後の人生 ～経験者 1000 人余りの声～

精神科への入院経験を有する方々へのアンケート・インタビュー調査の結果から

第 63 回日弁連人権擁護大会第 1 分科会実行委員・京都弁護士会

山口 亮

第63回日弁連人権擁護大会(岡山)

日弁連人権擁護大会シンポジウム 第1分科会 2021年10月14日(木)

「精神障害のある人の尊厳の確立をめざして～地域生活の実現と弁護士役割～」

基調報告書 <https://www.nichibenren.or.jp/event/year/2021/211014.html>

アーカイブ配信 <https://video.ibm.com/playlist/645462>

日弁連人権擁護大会 2021年10月15日(金)

「精神障害のある人の尊厳の確立を求める決議」

決議文 https://www.nichibenren.or.jp/document/civil_liberties/year/2021/2021.html

アンケート・インタビュー調査の目的

(基調報告書より)

日本の精神科医療にかかる法政策のあるべき姿を議論するためには、それがもたらす医療利益だけではなく、**負の側面としての隔離被害の実態**を探る必要がある。

これまで、精神科病院の不祥事として、数多くの人権侵害事例が報告されてきたにもかかわらず、日本は、これらを含む隔離被害に関する公的検証をしたことがない。さらに、長期にわたる患者隔離収容政策において、**常態的に存在し得ると推測される人間の尊厳及び自由の制約、また人生被害**について、まとまった実態調査を実施していない。

本実行委員会は、シンポジウム第1分科会開催に当たり、精神科医療施設への入院経験を持つ多くの当事者の声を聞くために、アンケート調査を実施した。

さらに、アンケート調査に伴い、弁護士からのインタビューに答えてもよいと答えた回答者に対し、さらに詳しい実態を聞くために、インタビューを実施した。

調査の概要

対象者

精神科病院での入院経験
のある方

実施期間

2020年6月20日～7月31日

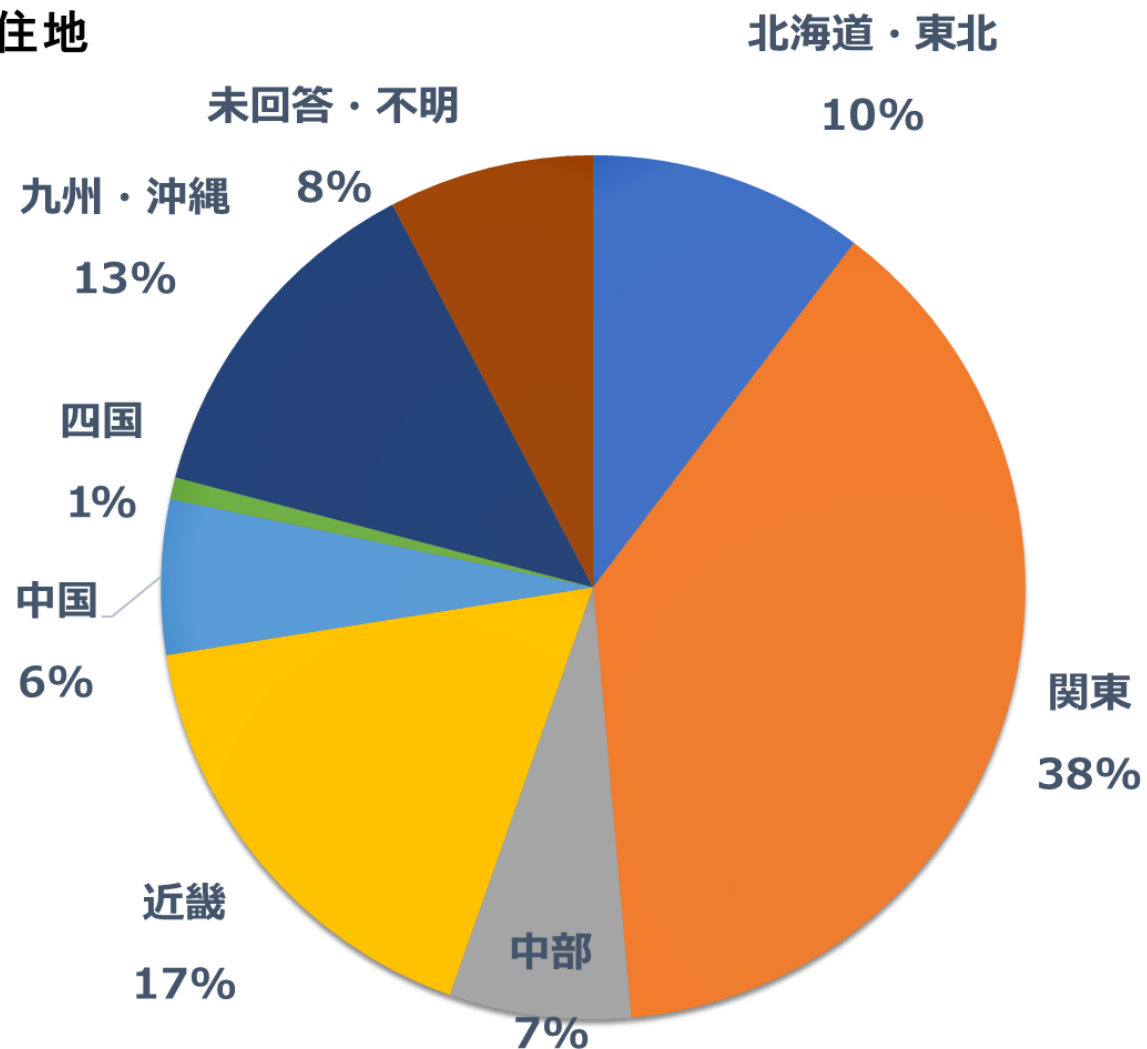
2020年12月12日～12月25日

有効回答数 1105件

回答者の属性

◆年代		
1 10代	1	0.1%
2 20代	37	3.3%
3 30代	117	10.6%
4 40代	302	27.3%
5 50代	309	28.0%
6 60代	213	19.3%
7 70代	39	3.5%
8 80代以上	4	0.4%
未回答	83	7.5%
合計	1105	100%

居住地



第1 入院時の体験について

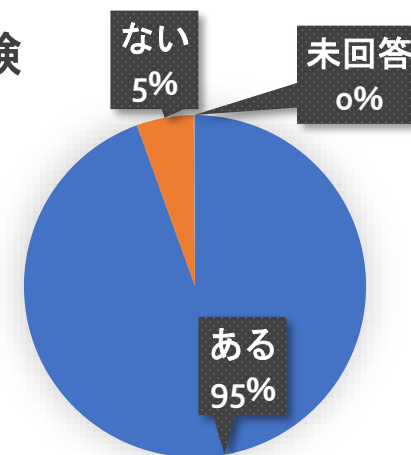
～悲しい・つらい・悔しい～

第1 入院中の悲しい・つらい・悔しいなどの体験について伺います。

問1 あなたは入院の経験がありますか？当てはまる番号1つに○を付けてください。

1 ある	1040	94.1%
2 ない	58	5.2%
未回答	7	0.6%
合計	1105	100.0%

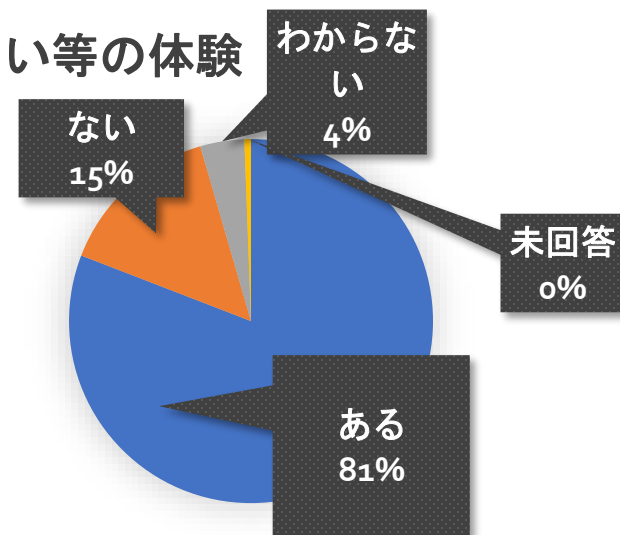
入院経験



問2 入院中に、悲しい・つらい・悔しいなどの体験をされたことがありますか？当てはまる番号1つに○を付けてください。

1 ある	841	80.9%
2 ない	156	15.0%
3 分からない	38	3.7%
未回答	5	0.5%
合計	1040	100.0%

悲しい等の体験



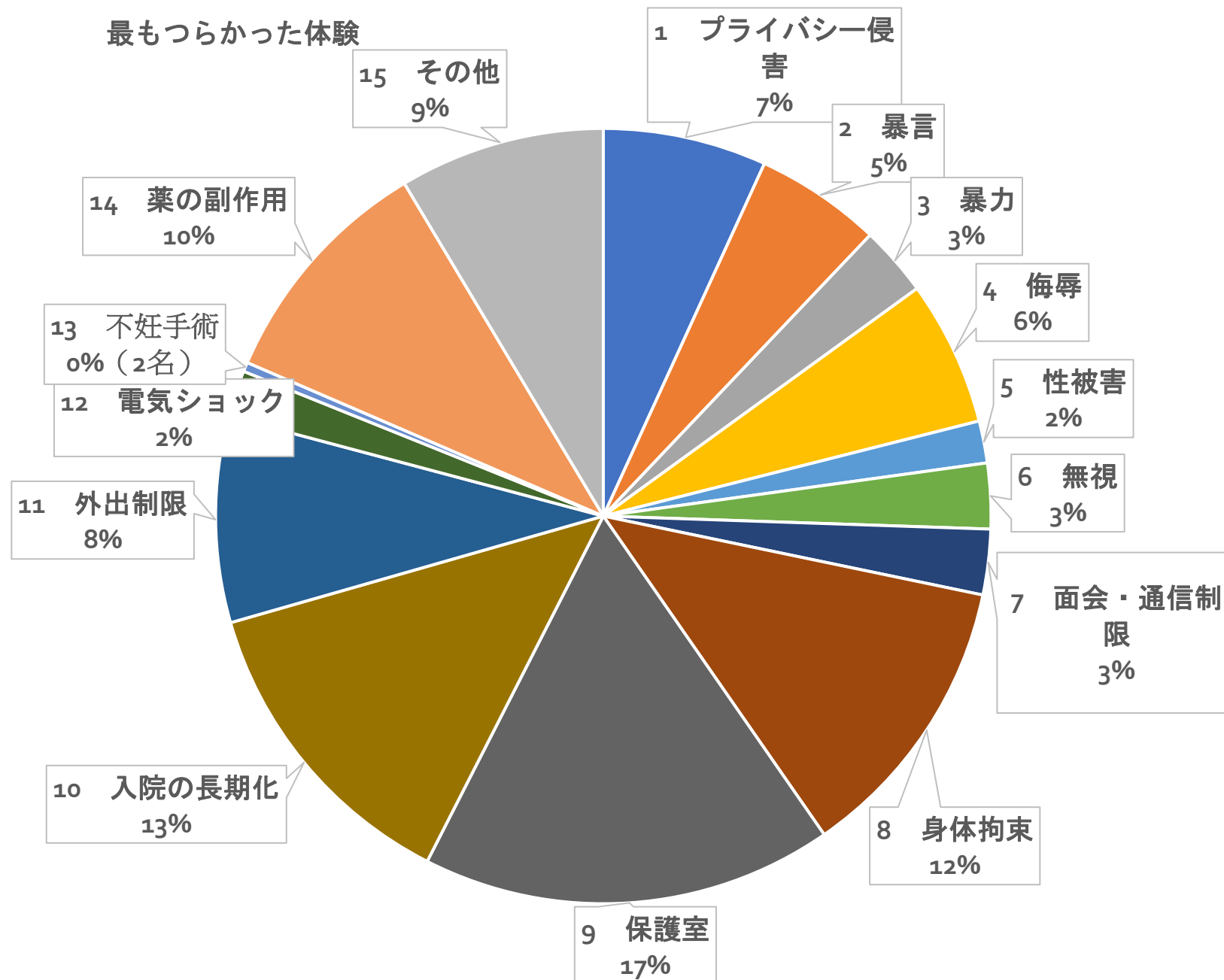
問 3

入院時の悲しい、つらい、悔しい等の経験として、
どのような体験をされましたか？（複数回答有）

1 プライバシー侵害	277	32.9%
2 暴言	261	31.0%
3 暴力	133	15.8%
4 侮辱	247	29.4%
5 性被害	64	7.6%
6 無視	184	21.9%
7 面会・通信制限	273	32.5%
8 身体拘束	244	29.0%
9 保護室	391	46.5%
10 入院の長期化	356	42.3%
11 外出制限	401	47.7%
12 電気ショック	39	4.6%
13 不妊手術	2	0.2%
14 薬の副作用	369	43.9%
15 その他	160	19.0%
合計(重複回答)	3401	404.4%

入院時の経験の中で、最も悲しい、つらい、悔しい体験は何でしたか？

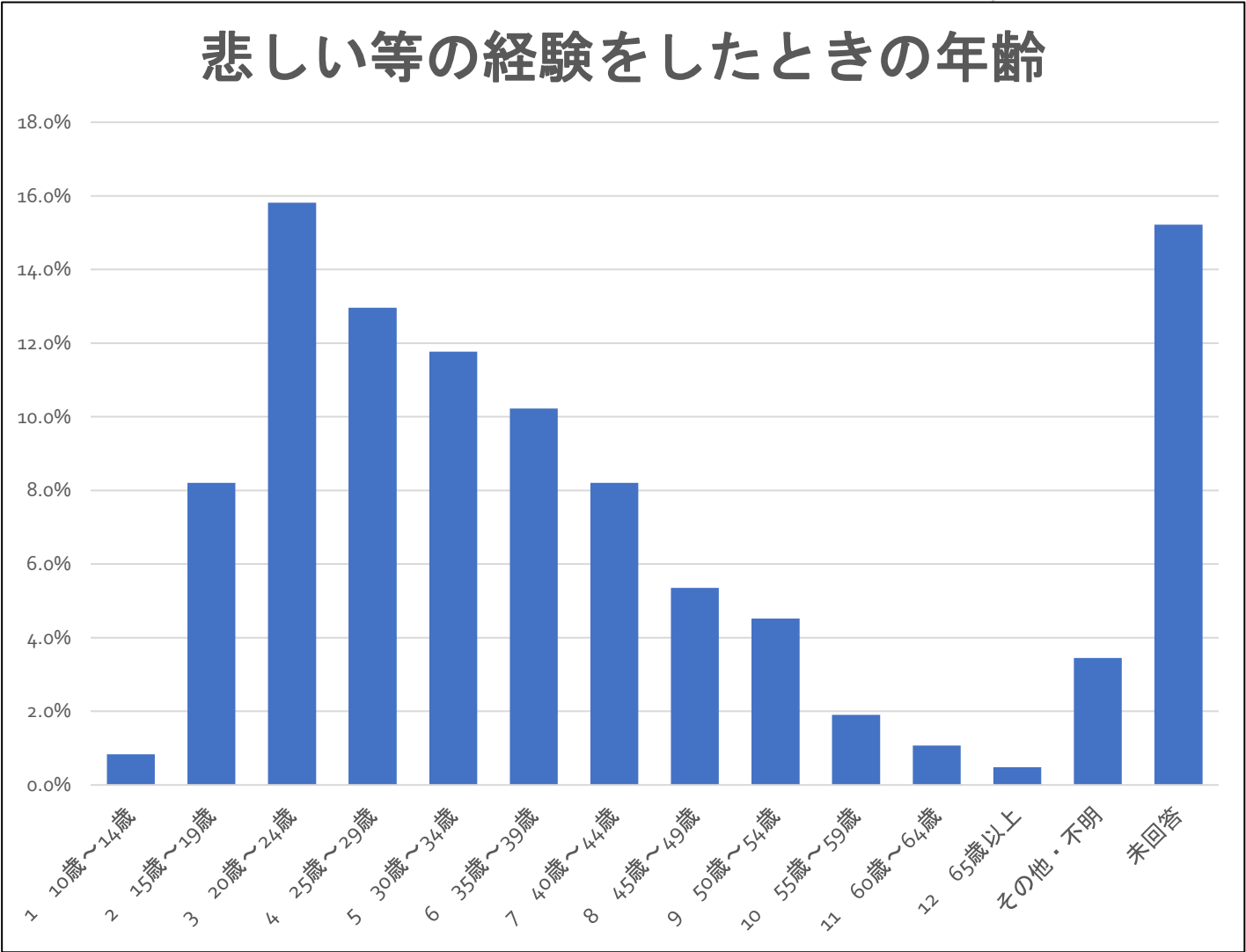
最もつらかった体験



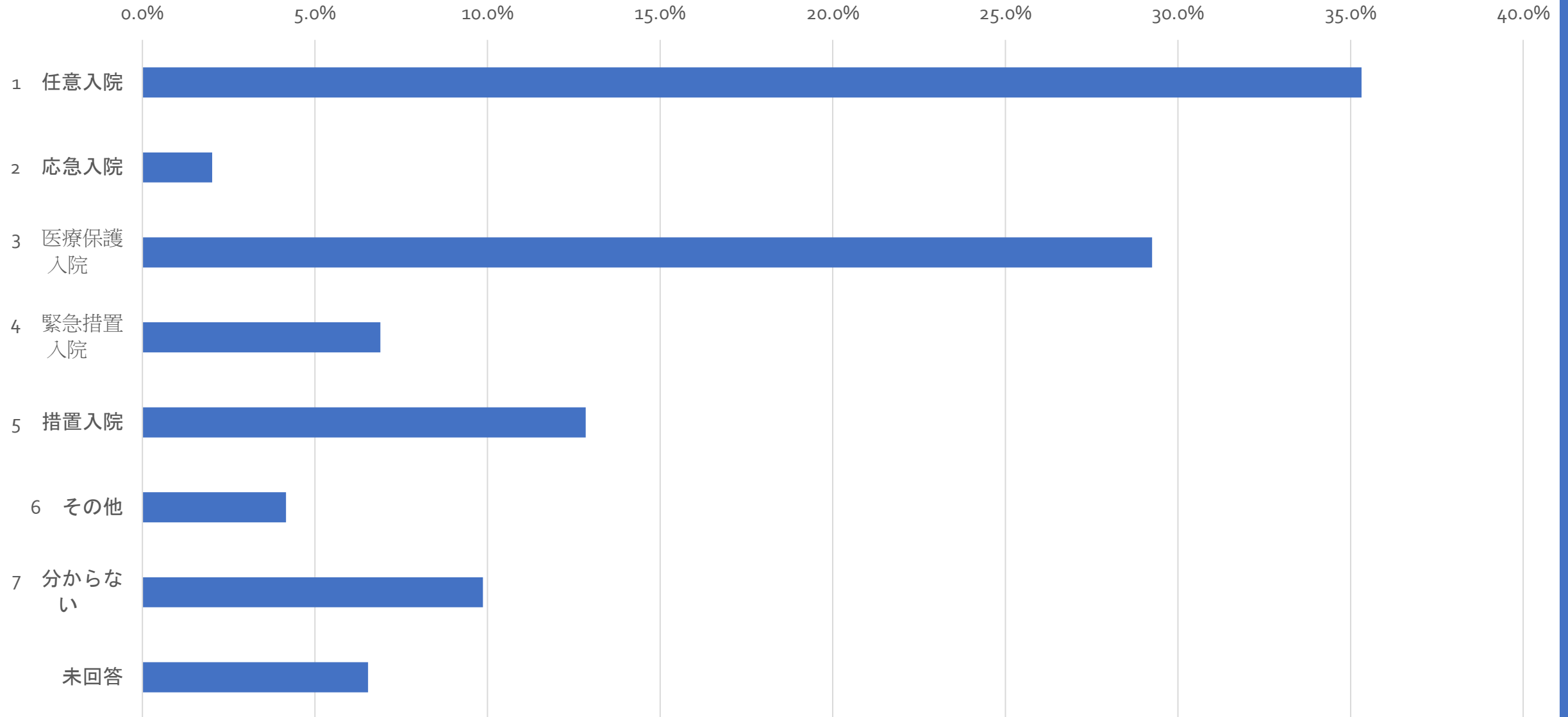
問 4 もっとも悲しい・つらい・悔しい等の体験をされたときの年齢を教えてください。

【問2で悲しい等の体験経験が「ある」と回答した841件】

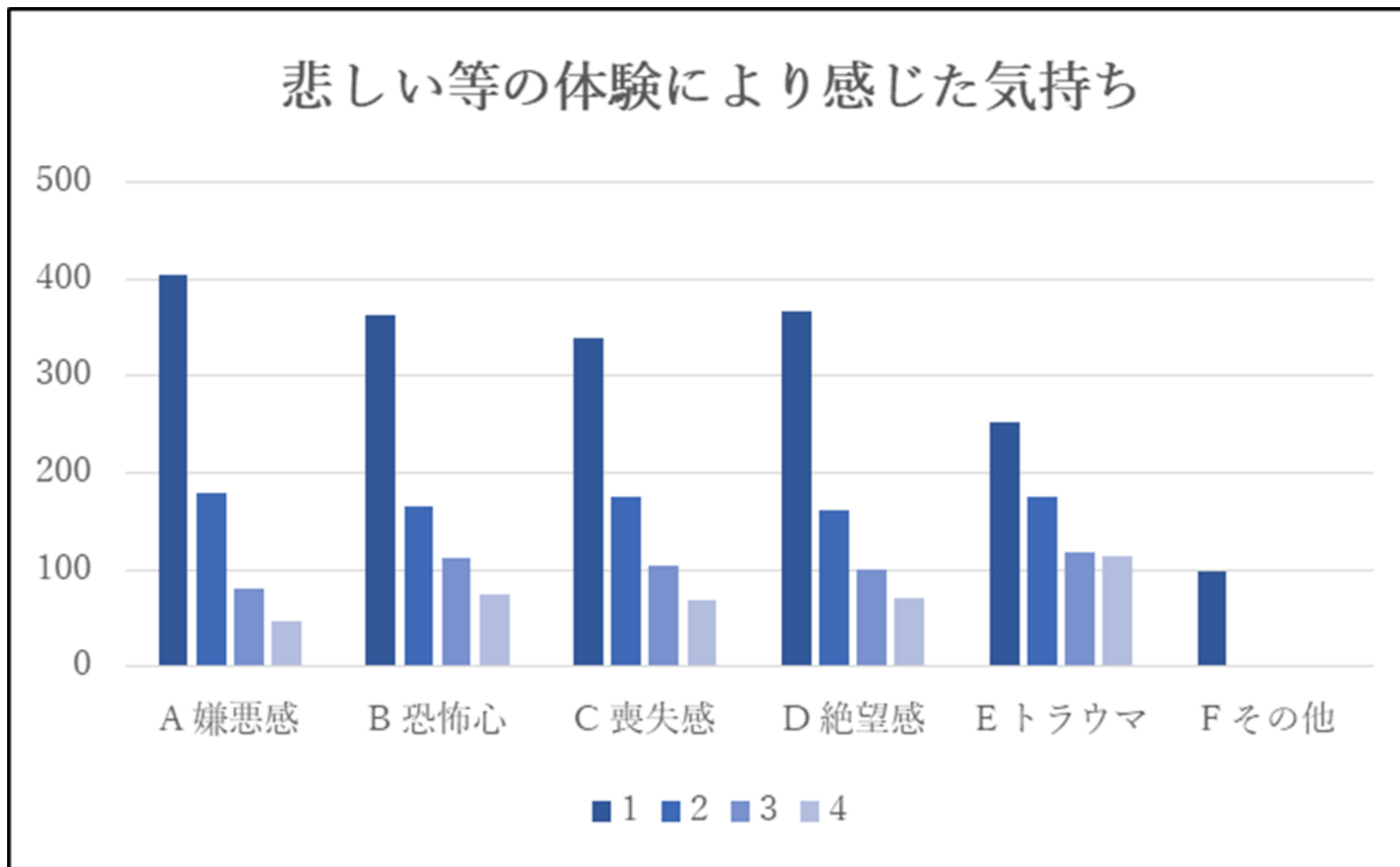
1	10歳～14歳	7	0.8%
2	15歳～19歳	69	8.2%
3	20歳～24歳	133	15.8%
4	25歳～29歳	109	13.0%
5	30歳～34歳	99	11.8%
6	35歳～39歳	86	10.2%
7	40歳～44歳	69	8.2%
8	45歳～49歳	45	5.4%
9	50歳～54歳	38	4.5%
10	55歳～59歳	16	1.9%
11	60歳～64歳	9	1.1%
12	65歳以上	4	0.5%
その他		29	3.4%
不明・未回答		128	15.2%
		841	100.0%



問5 その体験をされた時は、どのような入院形態でしたか？



問6 その体験により、あなたはそれをどのように感じましたか？それぞれ当てはまる番号1つに○を付けてください。



1 : とても当てはまる

2 : 少し当てはまる

3 : あまり当てはまらない

4 : 全く当てはまらない

「その他」と回答した方の具体的な記述

- 「人を信じられなくなった」
- 「死にたくなった」
- 「人としての尊厳を奪われた」
- 「嫌な思いが強くて言葉にできない」
- 「人生のどん底に落ちた感覚」
- 「愚かさを感じた。思い出したくもない。」
- 「思い出すと情けなく涙が止まらなくなる」
- 「生きる目的がなくなった」
- 「自そんな心が、日々なくなっていき、いつしか気にならなくなった」
- 「私の人生はもう、終わった…と感じた」

悲しい等の体験の具体的な内容（問7）

【521件】

- 入院したこと自体で人生が変わってしまった
- しっかりとした説明がなく人として扱われなかった
- 保護室・拘束等の劣悪な環境と対応によって人としての尊厳が奪われた
- 死にたくなった
- 薬の副作用・薬についての説明がない恐怖・薬についての意見が聞いてもらえない
- 話したくない。辛かったけど文章にならない。

入院によって人生が変わってしまった

- 精神科に入院した事で社会復帰できないと感じた（２）
- 精神科病院に入院してしまったことで自分は社会からドロップアウトしたというやり切れなさを強く感じた（８）
- 看護師に「あなたはここにいる他の患者のように入院するの、今までの生活をあきらめなさい。」と言われた。入院生活がいつまで続くか■■は無事に卒業できるか今後の生活に不安を覚える事だったので非常に●いと感じた（１８）

入院によって人生が変わってしまった

- 何回も入院すると慣れて来てしまい、もうどうでもいいと思う様になる。それでも、そこで諦めなければ、なんとかなる（４７）
- 今まで普通に暮らしてたのに、急にかぎがかかっている部屋にとじこめられて自由をうばわれた感じがした。もう閉じこめられて一生出られないような気がした（１０４）
- 入院が長期化してくると、自分が何故ここにいるのか、社会との隔絶感を痛切に感じ、以前のように戻れるのか不安になってくる（１０５）
- 親が看護師から、もう人並みの幸せはないと思って下さいと言われた（１４０）

人として扱われなかった

【医療従事者の言動】

- 患者に対して、常に高圧的な態度だった。馬鹿にしたような、口の利き方だった。家畜のような扱いだった。
- 幻覚のような夢と現実の間のようなところに意識があり、看護師が話しかけてきたが、うまくこたえられなかったら、「あー、パーになっちゃったかあ」といった。その声も聞こえていて、とてもショックだった（３９６）
- 看護師の底意地の悪さを感じました。虐待ではないので訴えることもできませんが、精神的苦痛を感じ嫌な思いがしました。

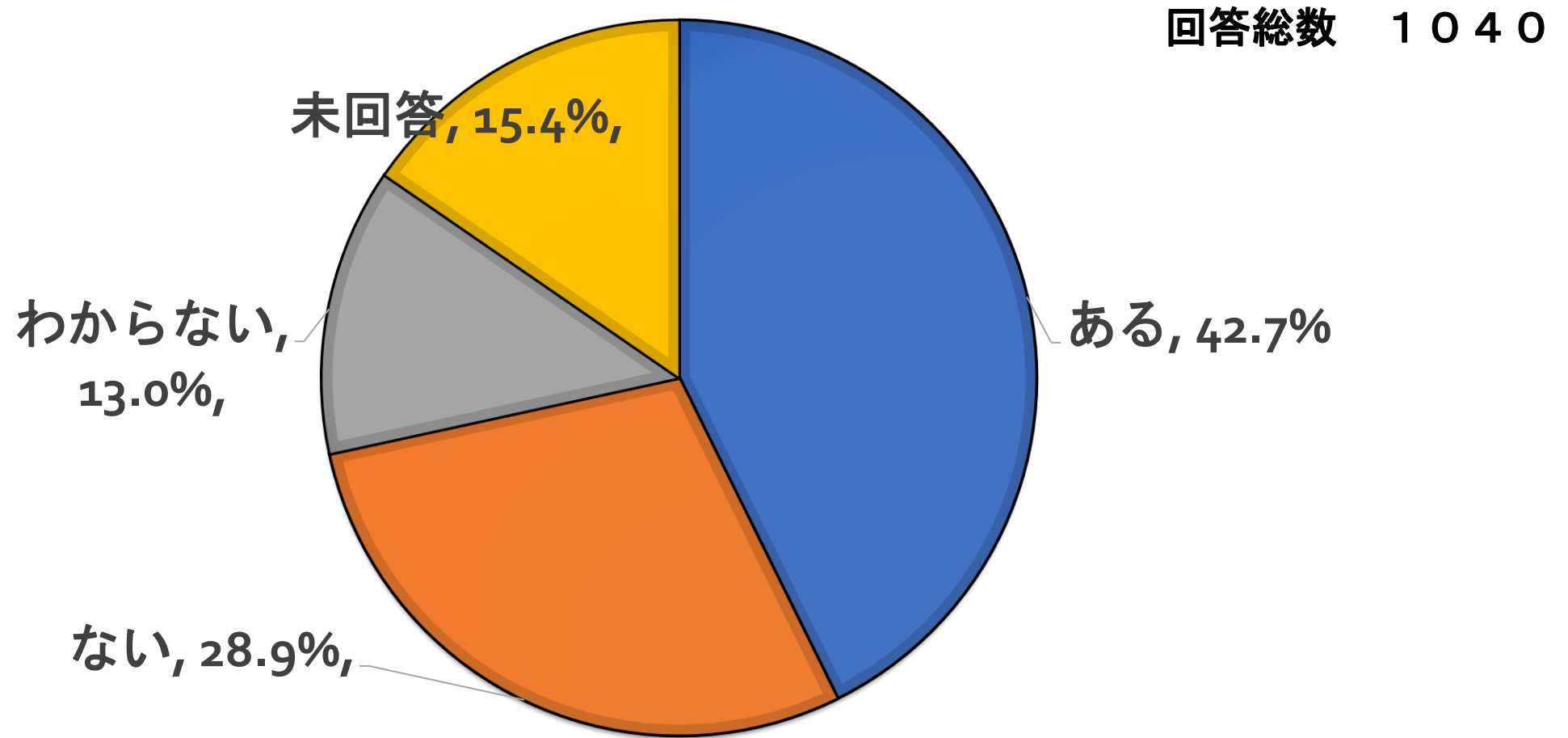
人として扱われなかった

【保護室・身体拘束】

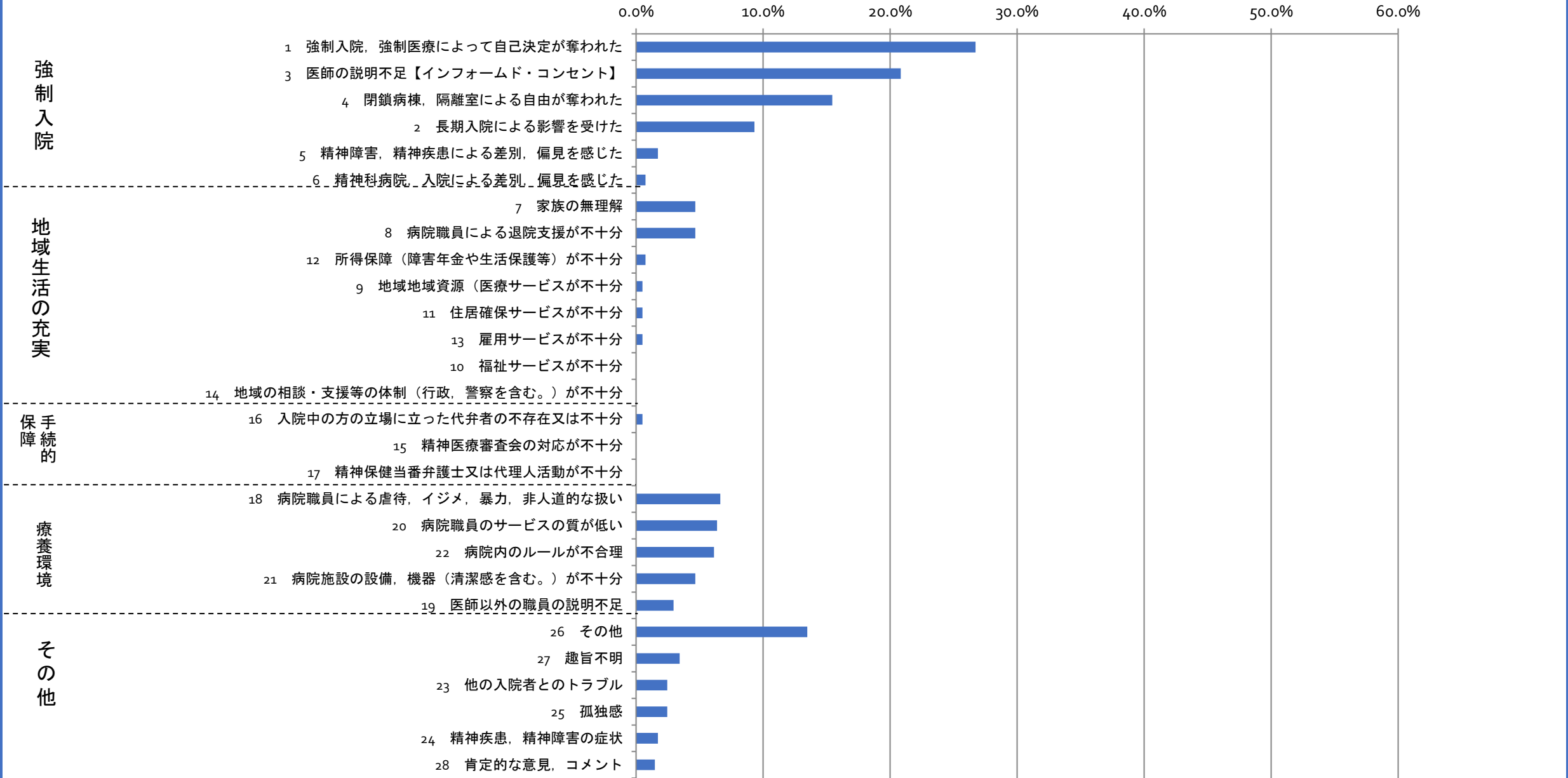
- 先生が話も聞いてくれず、すぐ縛られ注射を打たれ、薬を飲まされ、一週間縛られ続け、解いてくれなかった。訳も分からず説明もなく入院させられ、恐怖を受け付け食事もとれず、人生が終わってしまったような感じを受けた（４５７）
- 体を縛られ、おむつをつけられ、点滴をし（何回も針を刺され）、食事もままならず、無理やり薬を飲まされた経験だった。おむつを替えたく眠れずに看護師さんと呼んでも全く来ない。大声で呼ぶと「うるさい」「人手が少ない」といわれた（４５１）

第2 入院について納得できなかったこと

問9 ご自身の入院について、納得できなかったことはありますか。



入院について納得できなかったことの具体的な内容（分析項目28別）



強制入院

- 1 強制入院，強制医療によって自己決定が奪われた
- 3 医師の説明不足【インフォームド・コンセント】
- 4 閉鎖病棟，隔離室による自由が奪われた
- 2 長期入院による影響を受けた
- 5 精神障害，精神疾患による差別，偏見を感じた
- 6 精神科病院，入院による差別，偏見を感じた

7 家族の無理解

8 病院職員による退院支援が不十分

12 所得保障（障害年金や生活保護等）が不十分

9 地域地域資源（医療サービスが不十分

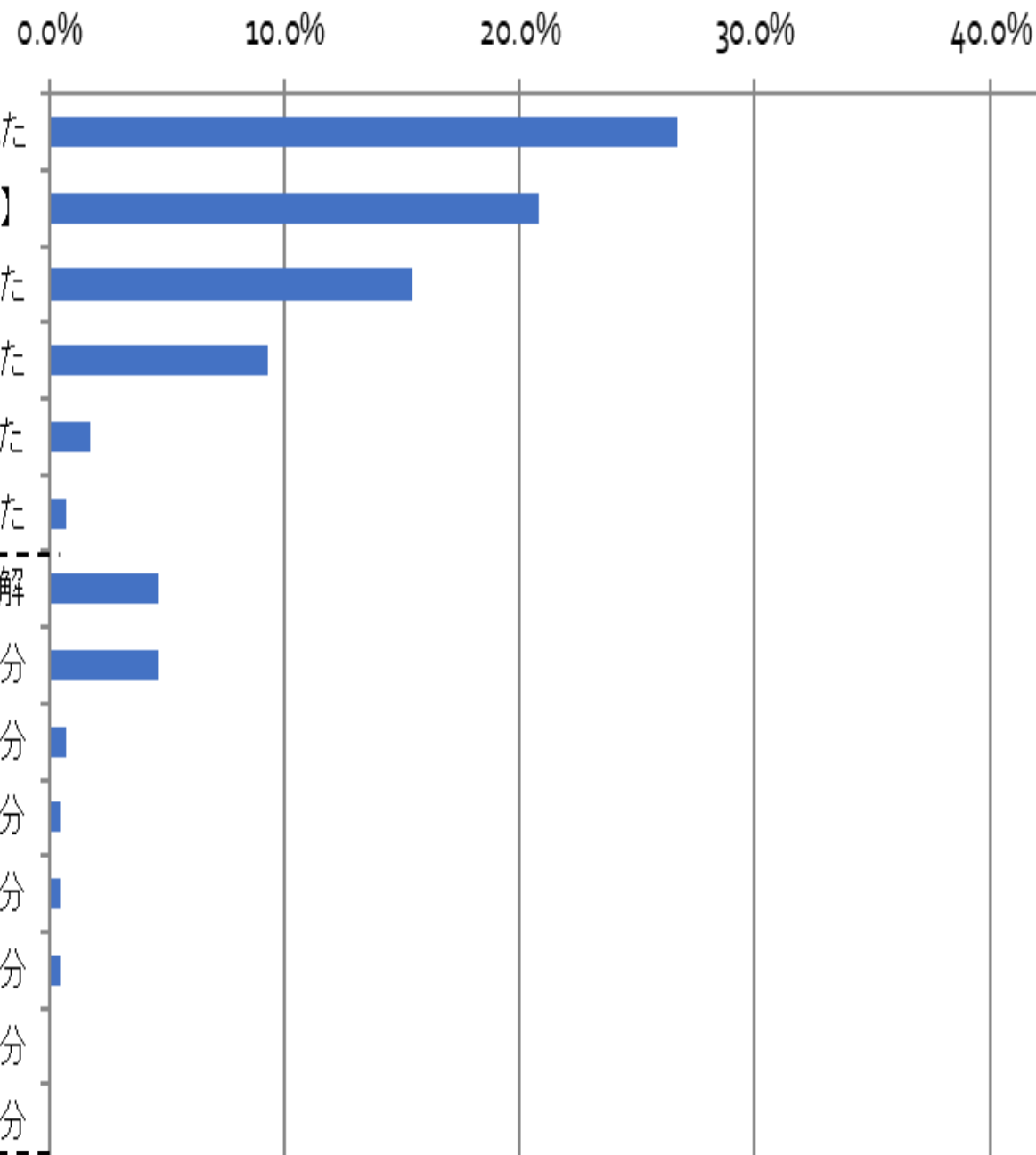
11 住居確保サービスが不十分

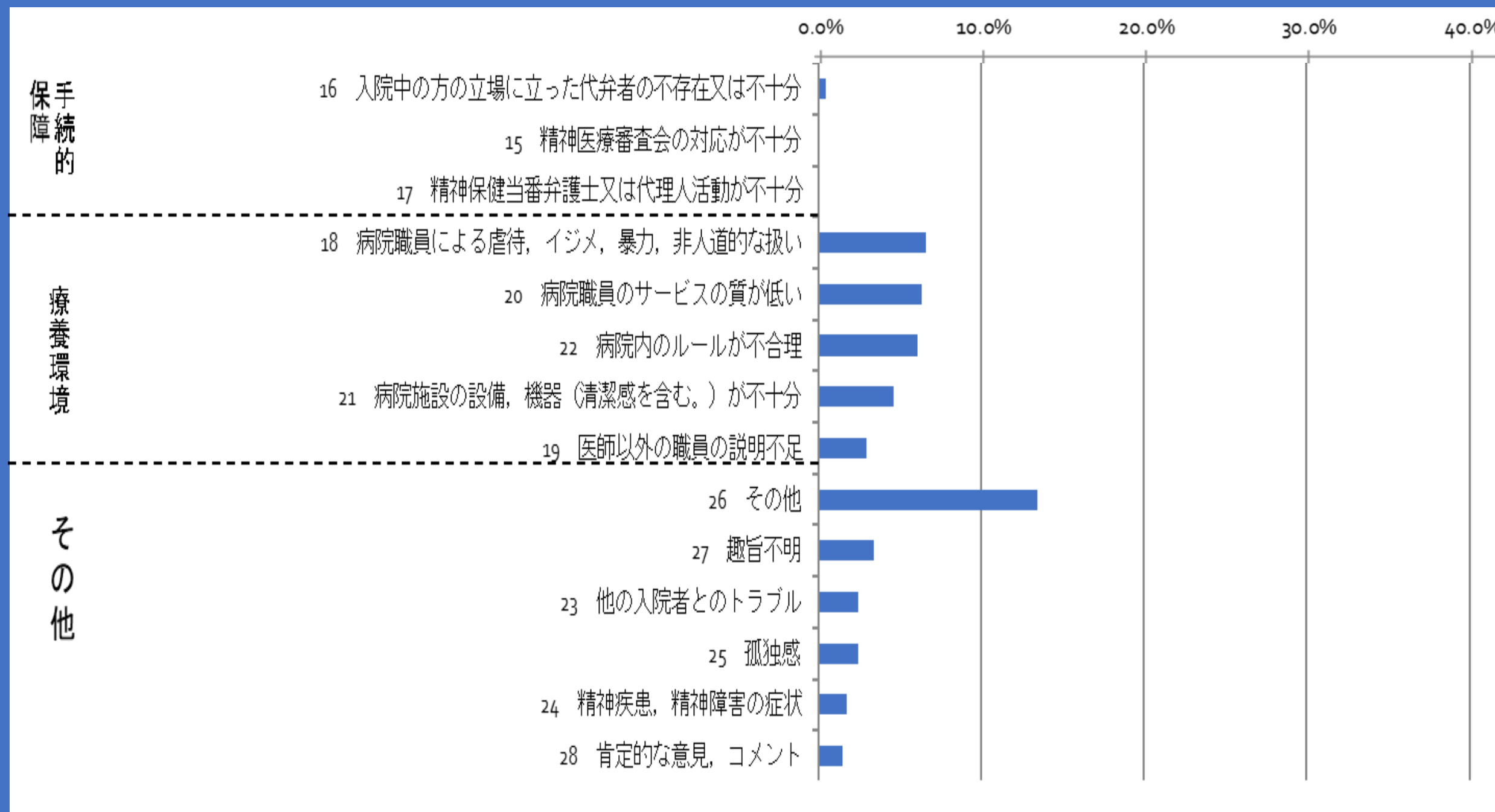
13 雇用サービスが不十分

10 福祉サービスが不十分

14 地域の相談・支援等の体制（行政，警察を含む。）が不十分

地域生活の充実





1 強制入院、強制医療によって自己決定が奪われた

- 急に役所の人などが来て、とにかく病院に行くぞと言われつれて行かれた。自分の意志がなかった。家に帰りたと言ったけれど、無理やり入院させられた。これは、現実ではないと思うくらいに、こわくつらかった。
- とにかくひどい。本人が拒絶してるのに、医者、親、警察、市等社会全体で本人を強制入院させ、説明する努力もせず、■年半という長期間監禁、治療効果も未だに感じられず、返って害のある薬からいまだに抜けられず、就労も結婚もできない状態にされた。今でも入院を話す人にも体験を承認してもらえない。
- 地獄のような生活だったので何もかもが不満だった。特に治療という名目で、やりたい放題されたこと。

3 医師の説明不足

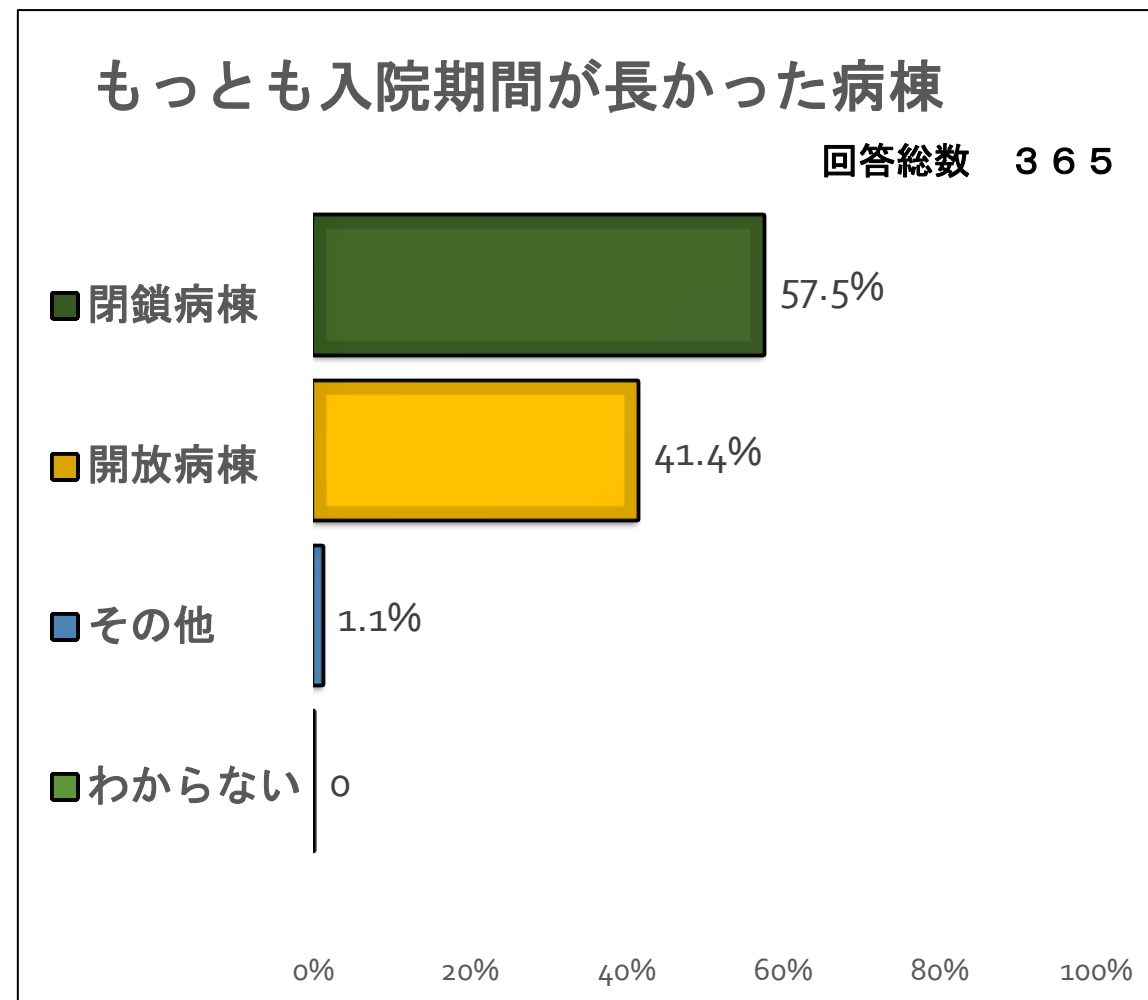
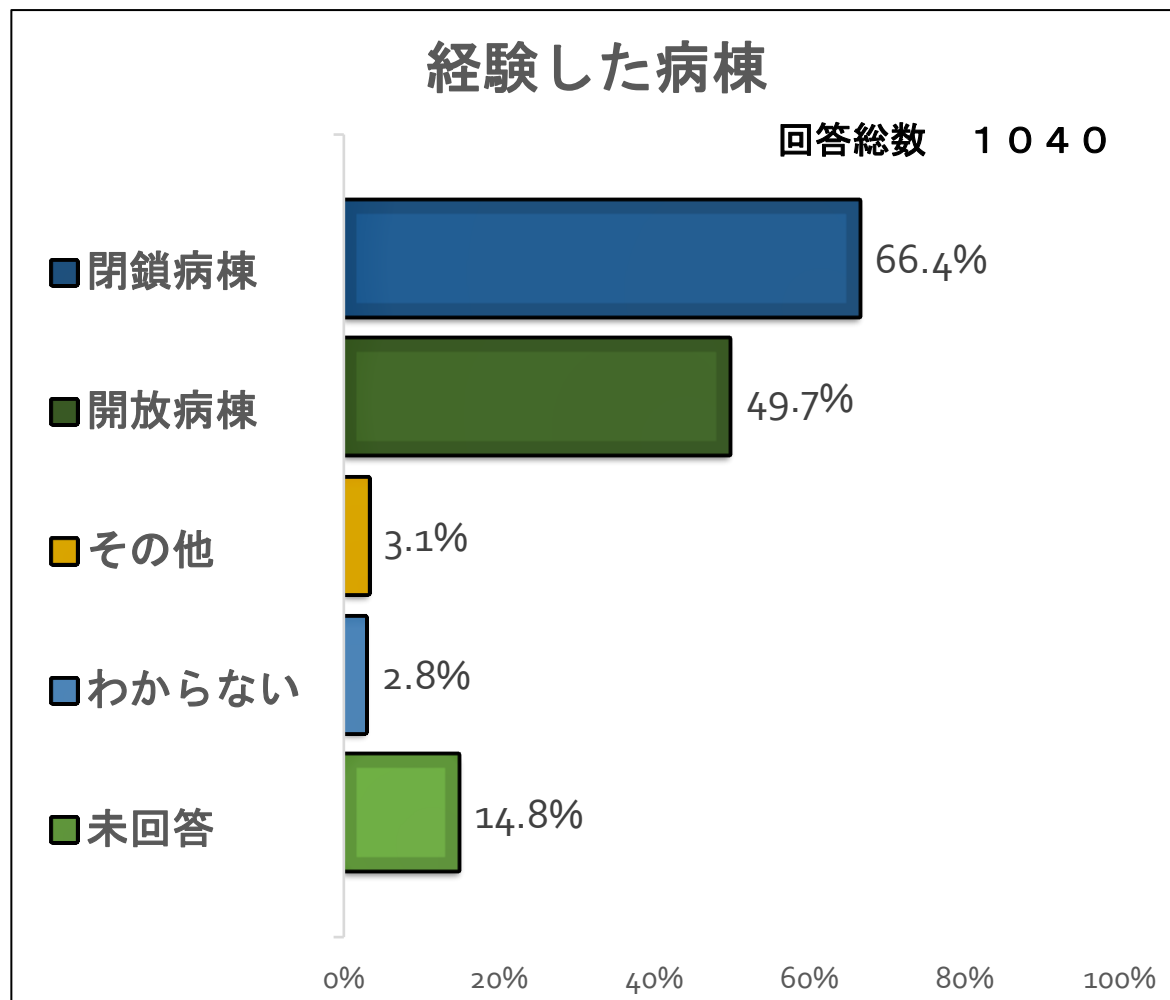
- 長期化の理由を尋ねたり、退院の希望を口に出せなかった点です。口に出せば警戒されて自由度が下がり退院が伸びると誰もが思っていた空気があったので、詳しい説明や伝えやすい空気感は欲しかったです。年配で長期化し、生活能力がなくなっている患者さんの事を何とか対処してあげて欲しかったと思います。心理検査の結果を聞いてもはぐらかされた点も、患者としてはきちんと知りたかったです。
- 自分の病気について十分な説明がなく、閉鎖病棟に入院させられた。なぜ自分は入院しなければならないのか、薬をのむ必要があるのか分からず入院していた。状態が落ちついてからでも、きちんと説明して欲しかった。

4 閉鎖病棟，隔離室による自由が奪われた

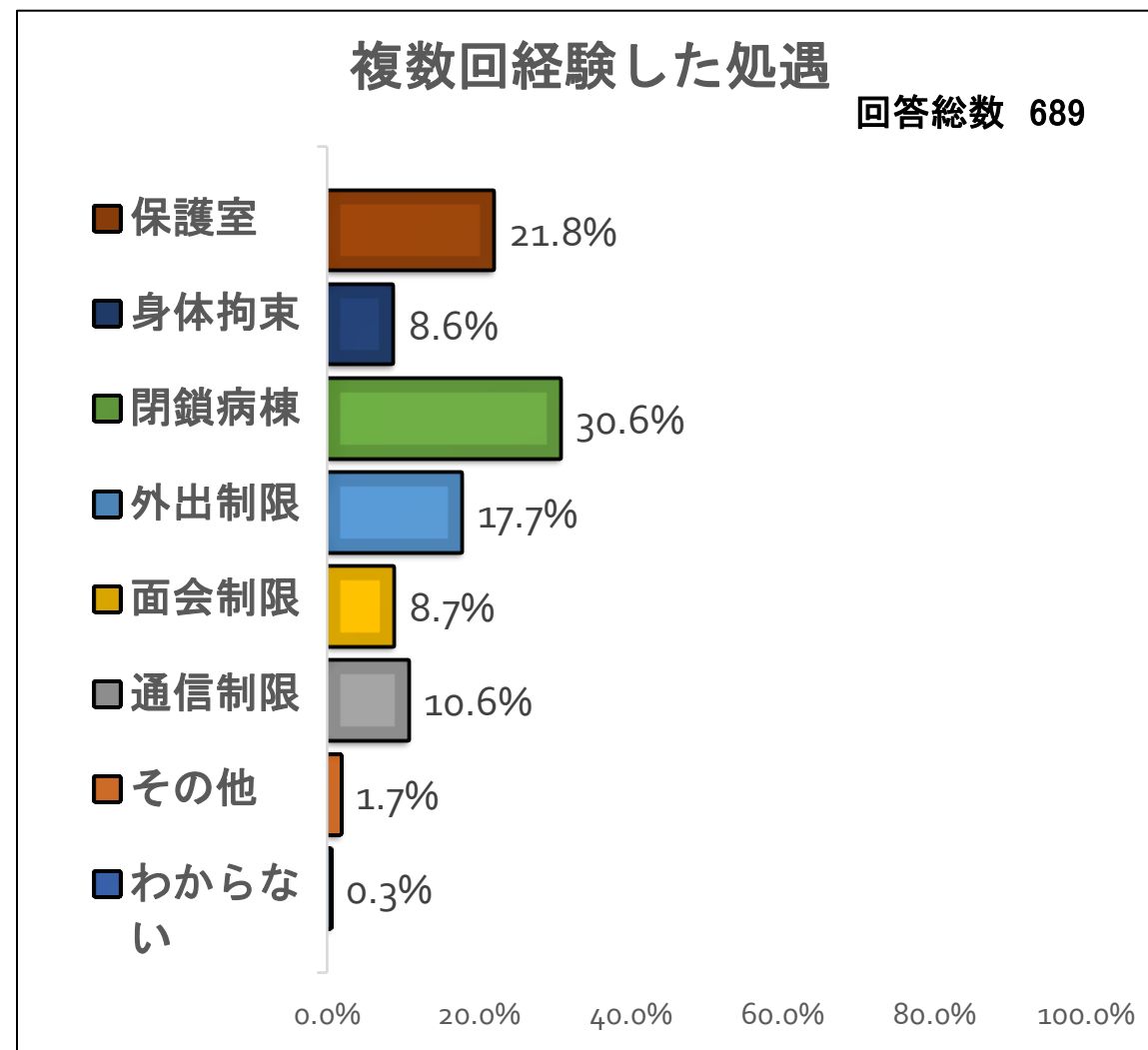
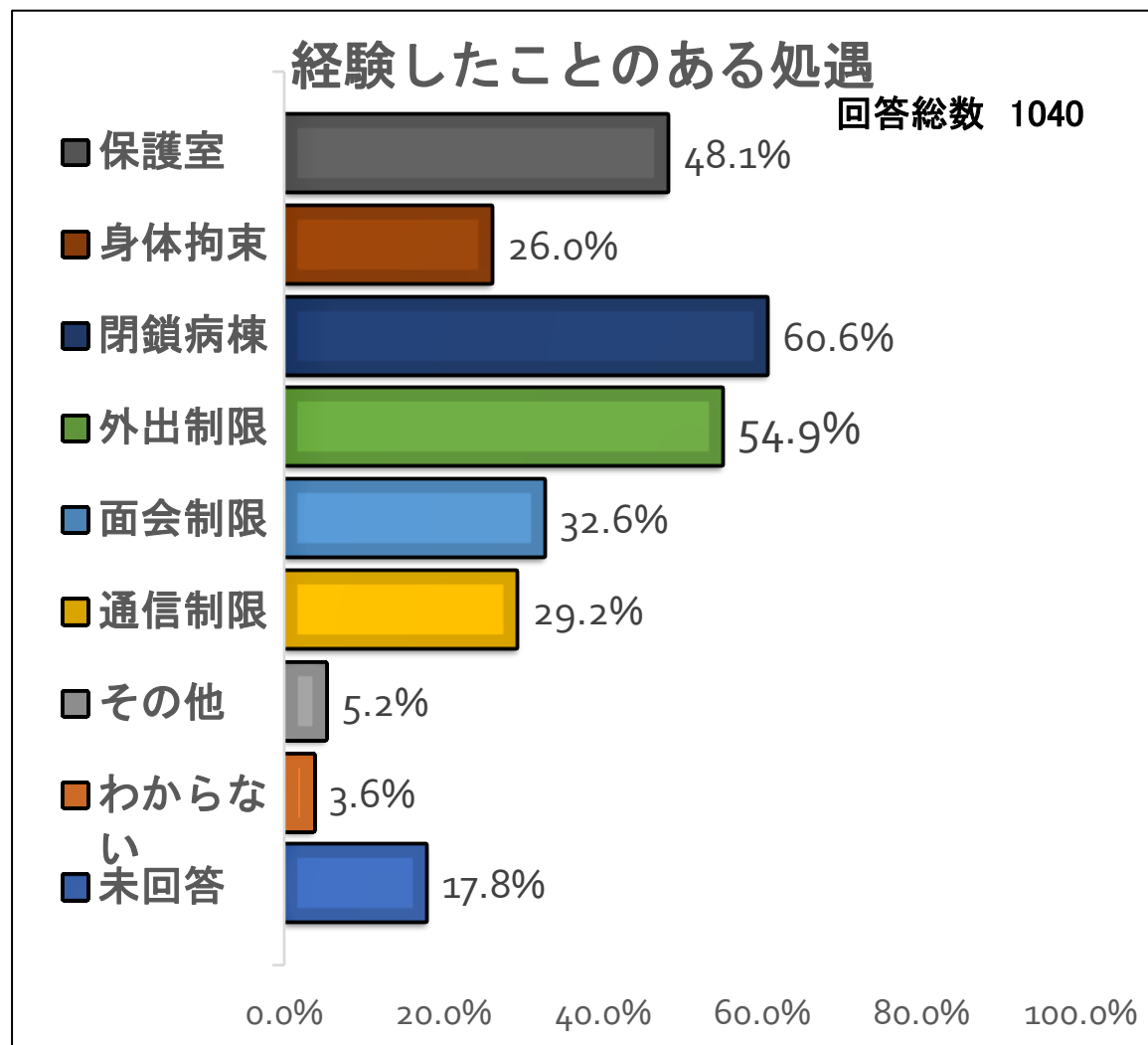
- 長期間の隔離，水も十分に与えられず何も持ちこめなく，セカンドオピニオンインフォームドコンセントも認めず，通信の自由もなく，外出も認めず，薬漬け，暴言，おどし，退院の見込みも話さない。いじめ。
- 保護室からなかなか出してもらえなかったし、出られないようにすぐ入り口を閉めたり、トイレを流すのさえ自分でやらせてもらえなかった。

- 精神病棟だったので、何を言っても妄想扱いされたり、患者という弱い立場なので、看護師に歯向かえない点。歯向かえば、最悪。保護室行きで拘束されるので、看護師の顔色をうかがわなければならない。又、患者の間でも、上下関係のようなものがあり、いじめも存在する。しかし、それについては看護師は気づかないというありさま。それを医者に訴えても、また妄想扱いされる。四面楚歌状態。
- 入浴など。些細なことで看護師に怒鳴られた。入院中に主治医の診察がめったになく、いつ退院出来るのか見当がつかなかった。

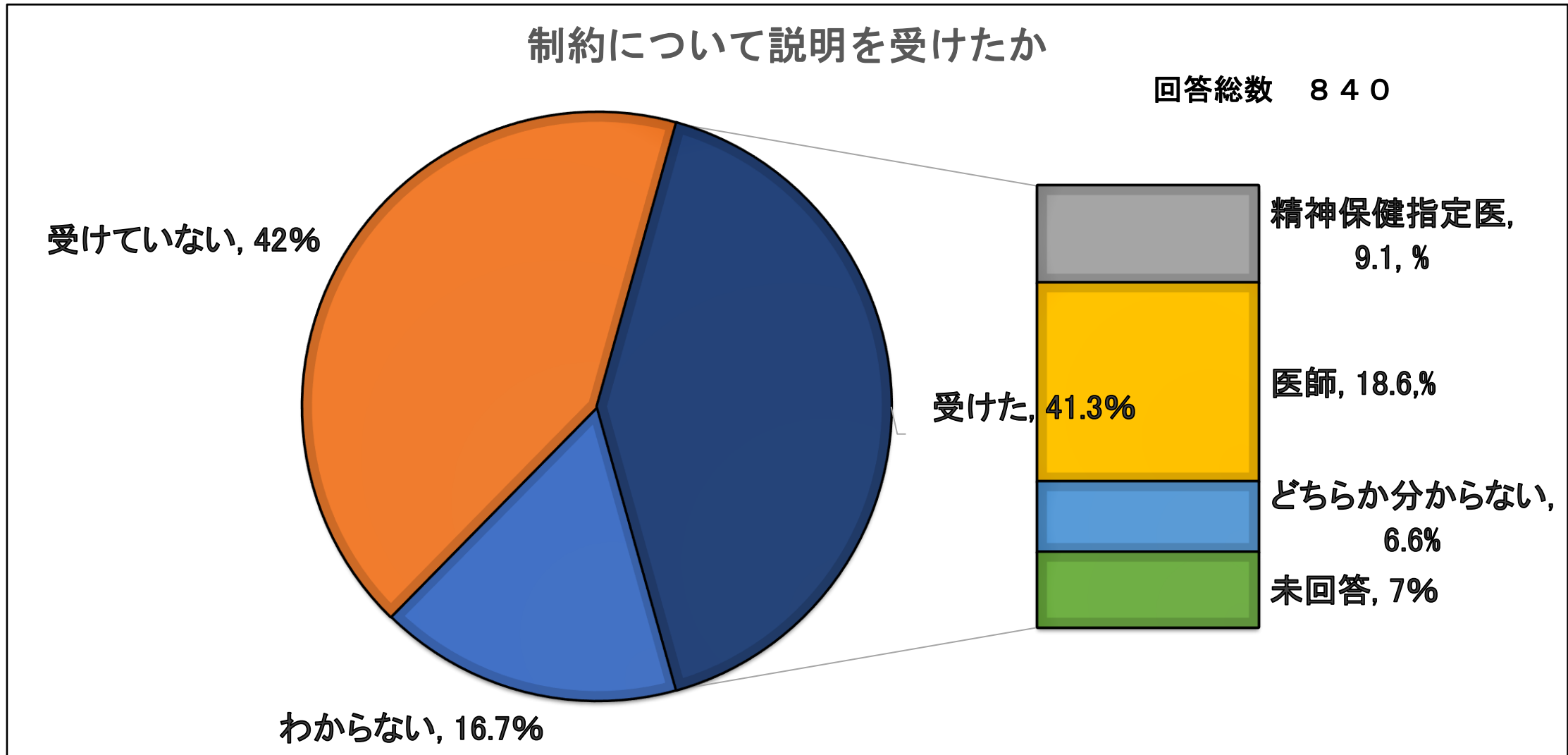
問11 経験された病棟を教えてください。当てはまる番号全てに○を付けてください。そのうち、もっとも入院期間が長かったものに◎を付けてください。



問12 あなたは以下の処遇を受けたことがありますか？当てはまる番号全てに○を付けてください。そのうち、複数回経験されたものに◎を付けてください。



問13 問12の制約を受けた方にお聞きします。その際、医師から理由の説明を受けましたか？「1 受けた」と回答された方は、誰から受けたのか○を付けてください。



問 17

体験した精神科医療に対する意見、コメント

- 医療ではなかったと思っています。収容所のような場所でした。人間が人間を閉じこめることができるという世の中はこわい。
- 薬を出すだけの担当医に何人も出会ってきたが、精神疾患は「人間のこころ」の傷の病であるので、無機質な薬、無機質な医師の診察では何一つ改善は見込めない。医師と患者の適切な距離を保ちつつ、「人間対人間」の対話的な治療の試みが必要であると、医療関係者も患者及び患者関係者も多方認識がなければ病気からの回復は困難であると思う。

- 患者本人より家族の都合や意思が尊重され、本人の意向はあっていないようなもので、とても悲しく思います。退院してから制度に疑問に思う部分や、入院時の説明や書類にはあったけれど、閉鎖病棟内に電話が置いてなかった事、人権団体や弁護士に電話をしたいと言ってもNSにダメといわれたことなど、おかしい部分が多くあったように思います。私は精神科でできごとがトラウマになっており、いまだに辛いです。私のような思いをする人が少しでも減ってほしいと願っています。
- 多分、当時、社会と隔絶する為に入院という治療方針だったと思う。偏見もひどかったし、入院していた人たちも隔離されたりしてた。入院していると、不当な扱いもあたり前になってしまう。社会と隔絶されるということは、治療目的の社会からのストレスを軽減させたかもしれないけど（私はそう思えないけど）偏見や新しい常識とか、病院でしか通じない常識とかまんえいしてた。一時的入院、最低限の入院は必要かもしれないけど、長期にわたっては必要ないと思う。

- 施設収容型の入院は一日も早く転院されるべきだ オープンダイアローグ的活源を確立し 地域移行を強くして、地域の中で活源するアクトリーチのシステムを確立すべき。そのために一番変わらなければならないのは入院施設をもつ病院だ。そこが地域医療のキーステーションとなり要となって新しい地域移行の拠点となる新しい精神医療システムを構築すべき

第3 アンケート調査 総括

- 約 8 割の回答者が、精神科病院入院中に、悲しい、つらい、悔しいといった体験をした、と答えた。

(具体的な内容は基調報告書巻末資料 2 7 2 頁以下に記載)

- 約 4 割の回答者が、入院に納得ができなかったことがある、と答えた。

(具体的な内容は基調報告書巻末資料 2 8 0 頁以下に記載)

- 自由記載欄には、入院や治療について、「苦しかった」「辛かった」「絶望を感じた」「みじめ」「社会から切り離された」「孤独」「人格・尊厳の否定」「収容所のような」「飼育されているような」「一人の人間として扱われなかった」という言葉があふれていた。

- これらの被害は、単に有効適切な医療を強制されたということではなく、その人の尊厳も主体性も自己評価すらも奪い、絶望をも強いたものであり、その人の地域生活における同一性も連続性も損ない、人生を根底から破壊するに足る被害といえる。
- これらの被害は、退院し、時間が経過しても簡単に癒えることはなく、何十年も前の経験が、今でもトラウマとして語られている。
- このような被害をなくすためには、現行の精神科医療制度を見直し、個人の尊厳を確保するような改革が求められていることは疑いようがない。

第4 個別インタビューの実施報告

個別インタビュー調査の概要

<目的>

アンケートの回答をさらに詳しく本人から語ってもらうこと

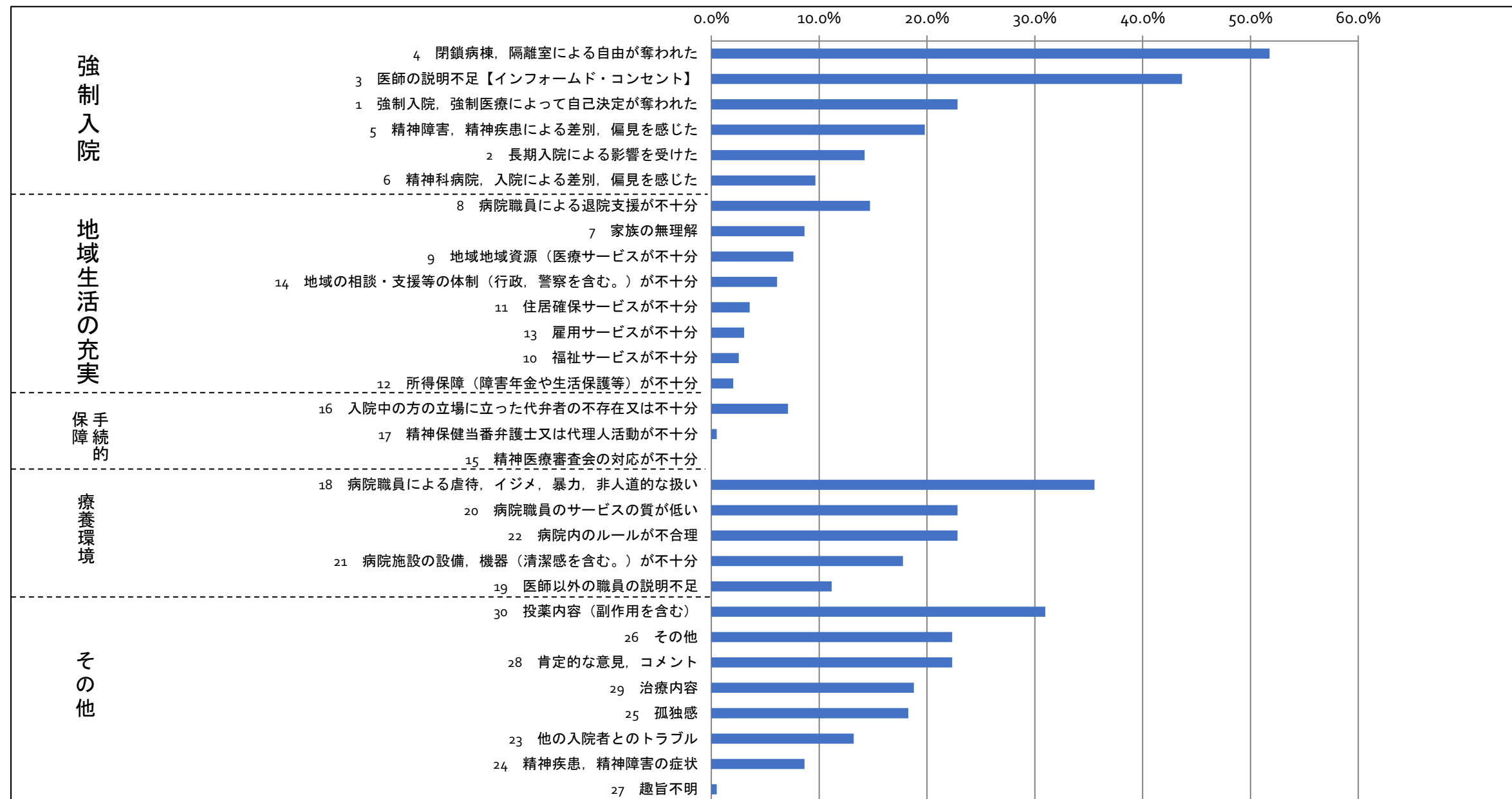
<協力いただいた方>

399名の方からインタビュー承諾回答を得たが、実際にインタビューを実施したのは全国196名の方

<インタビュー実施方法>

実行委員及び各地の協力弁護士による面談（直接・ウェブ）・電話によって聴き取り

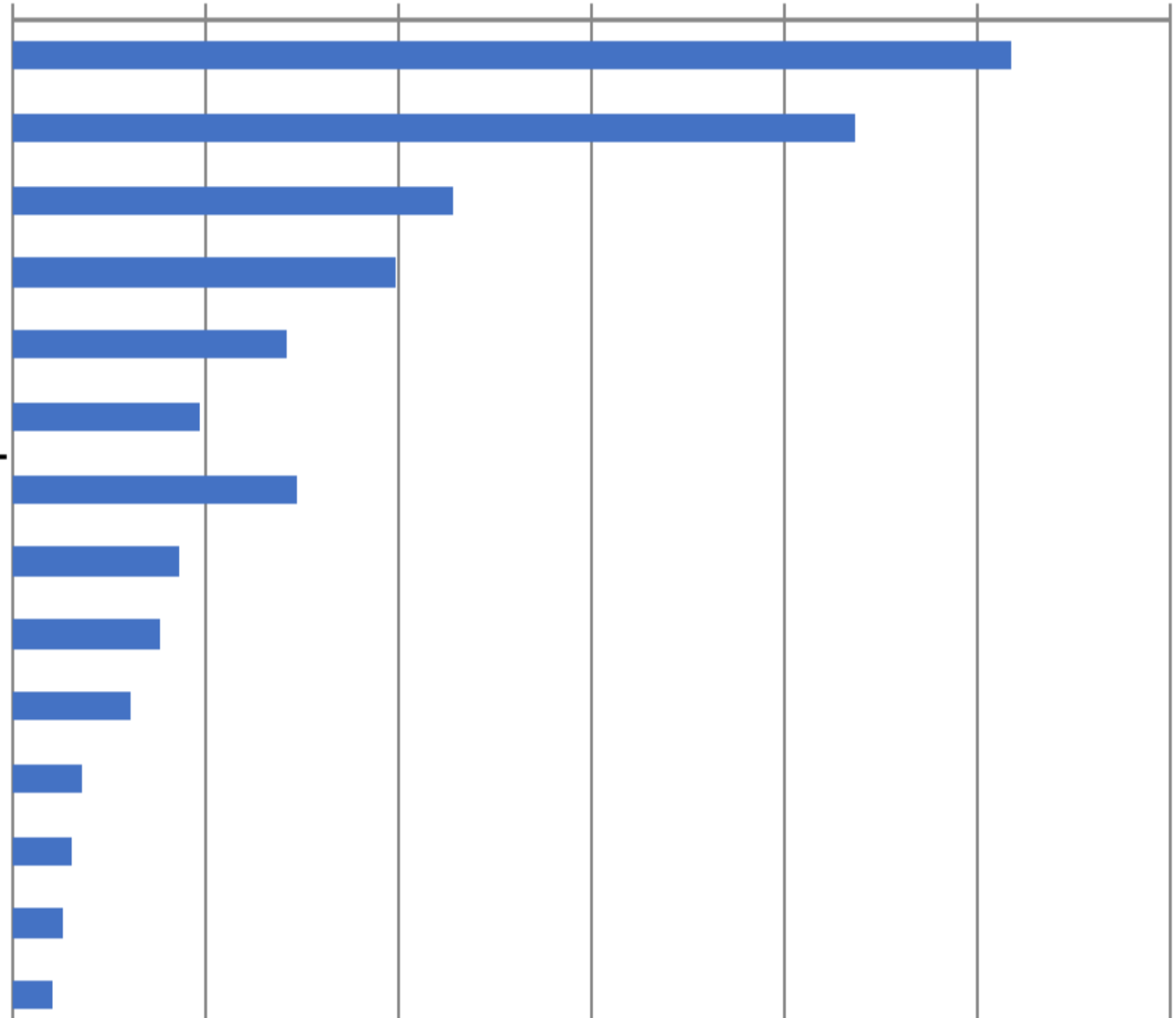
個別インタビューの結果（分析項目30別） 基調報告書293頁以下参照



0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0%

強制入院

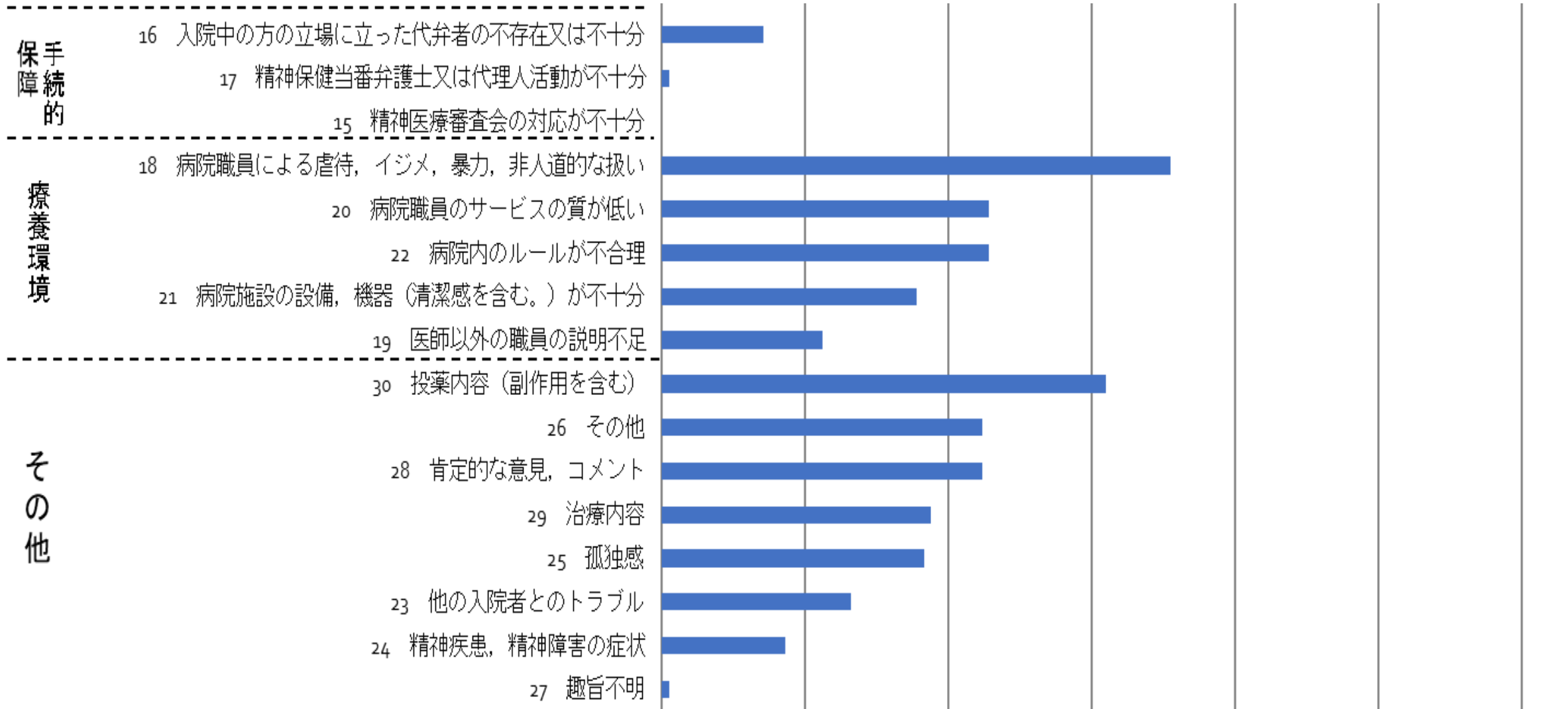
- 4 閉鎖病棟, 隔離室による自由が奪われた
- 3 医師の説明不足【インフォームド・コンセント】
- 1 強制入院, 強制医療によって自己決定が奪われた
- 5 精神障害, 精神疾患による差別, 偏見を感じた
- 2 長期入院による影響を受けた
- 6 精神科病院, 入院による差別, 偏見を感じた



地域生活の充実

- 8 病院職員による退院支援が不十分
- 7 家族の無理解
- 9 地域地域資源（医療サービスが不十分
- 14 地域の相談・支援等の体制（行政, 警察を含む。）が不十分
- 11 住居確保サービスが不十分
- 13 雇用サービスが不十分
- 10 福祉サービスが不十分
- 12 所得保障（障害年金や生活保護等）が不十分

0.0% 10.0% 20.0% 30.0% 40.0% 50.0% 60.0%



※ 詳細は基調報告書をぜひ参照ください